

令和 5 年度

第 7 回定例教育委員会記録

阿久根市教育委員会

- 1 日 時 令和5年11月10日（木）午後2時00分開会
- 2 場 所 第2会議室
- 3 出席委員 委員 大瀧 孝夫
委員 古賀 正男
委員 中野 真理
委員 西園 敦子
- 4 事務局職員 教育総務課長兼
学校給食センター所長 牧尾 浩一
学校教育課長 濱崎 忠雄
生涯学習課長 新町 勝利
スポーツ推進課 大田 省吾
- 5 記録者 教育総務課長補佐 寺地 英兼
- 6 会議に付した事件
日程第1 令和5年度第6回定例教育委員会会議録の承認について
日程第2 事務執行報告について
日程第3 その他
- 7 その他 今後の日程について
- 8 議事の概要 別紙のとおり

定例教育委員会 11／10（金）

開会 午後2時00分

報告・議決事項の採決状況

○ 報告事項

報告番号	件名	審議の状況	採決次第
	なし		

○ 議決事項

議案番号	件名	審議の状況	採決次第
	なし		

議事の要旨

日程第1 令和5年度第7回定例教育委員会会議録の承認について

教育長・教育委員 異議なく承認。

日程第2 事務執行報告について

教育委員・教育長・各課長から報告あり

中野委員

11月6日に、鶴川内小学校へ教育委員訪問が実施されたが、私が所用により出席できなかった。今回の各委員の報告を聞いた中で質問するが、①児童の出席が少なかった理由は。②教頭先生が3年生、6年生の特別支援学級で授業をしているが、働き方改革の中において、校長先生とともに一生懸命働く中で今状況はどうなっているのか。③知的支援学級のたけのこ学級の3学年を一人の先生で受け持っているが、実際、授業の状況はどのようになっているのか。4年生、6年生の複式学級の状況も含めてお聞きしたい。

中野教育長

インフルエンザを心配していたが、風邪と体調不良と聞いている。特別支援学級の件については、国・県で定数が決まっており、それによって先生の数が決まるが、特別支援学級は一学級8名を超えると2学級になる。鶴川内小は、3名しかいないので1学級で、異学年が混在する学級となる。

また、鶴川内小は学級が1減となるとともに、教諭が1名減となったことから、教頭先生が担任をしないといけない状況にあり、教頭の業務を行いながら毎日の授業を行っている。教頭先生の業務を校長先生が協力しているので、学校の運営には支障はない。

校長先生は、普通授業は行わないが、授業をしないと4年生、6年生の変則複式で授業しづらいと先生から相談があって、教科によって分けて授業をしている。その時に校長先生がどちらかに入って授業を行っている。また、社会科の授業はできないということで、鶴川内中の社会科の先生が、自校の授業をしながら、鶴川内小6年の社会を教えている。先生が幸いにも理解し、協力いただいているからであるが、来年度はどうなるかわからない。

教頭先生は、やる気のある方だが、報告物が思ったようにいかないと聞く。

阿久根小・中に自立支援教室を設け、そこに学習指導支援員を配置しているが、学習指導支援員を鶴川内小に配置して、変則複式学級の授業をするときに、4年生の指導にあたる形をとっている。非常に助かっているということなので、来年度も継続していきたい。

中野委員

組織的な授業改善は、複式学級の経験がない中で赴任する先生が多いので、鶴川内小の校長も年度末で定年、教頭先生も後一年しかいない。先生も少ないので、市全体で研修をした方がいいと思う。

大瀧委員

鶴川内小を訪問して、教頭先生が授業されていることにびっくりした。私も教頭の経験があるが、現在では教頭の二人体制があるほど重要視される中で、加えて授業まで持っている。詳しくは言えないが、確かに法律の中でも教頭は校長を補佐し、必要に応じて児童生徒の教育を司るとある。このことから、教頭先生は、校長先生が適切な判断をするために、多くの正しい情報を提供しなければならない。児童数が少ないので授業をすることも許されるが、働き方改革が取り上げられる中、確かに80時間以上の激務をこなしている教頭先生が83%以上いると。調査事項もあるが、これは学校の大小に関わらずある。更に複式学級において、2つの学年の教材研究をやっている。

これは、児童生徒だけではなく、教職員にも関わる問題であり、教員の希望者が少ないということだから、教育環境づくりは児童生徒と同時に働きやすい職場づくりと考える。学校規模適正化もあるが、それに合わせて学校の適正規模というものを考えていかないといけない。教育環境の整備、教頭先生、教職員も含めて、働き方改革を考えてほしい。

中野教育長

教頭先生については、本市だけではなく県全体の問題として、原因には教員不足があるが、ここ数年教頭先生の成り立たない。やはり、朝早くから夜遅くまで、学校にいる時間が長く、加えて授業をする教頭は、終了後に学校運営の報告、教材の研究等をしている。基本45時間以下ということもあるが、そこをクリアすることは難しい。改善しないといけないが、簡単にはいかない。学校によって異なるが、他の学校は病気で休む場合に臨時で授業に入ることもあるが、鶴川内小は常時（約200日）授業に入っている。児童数に変化伴う定数が変わらない限り、この問題の解決は難しい。

大瀧委員
西園委員

教頭先生が校長先生に直接相談することもなかなか難しい。

教職員の採用について、九州地区の採用試験が6月に早まるということだが、複数の地域で受ける人もいると思う。全国的な流れとして、他の地域では、今後のどのような時期で実施されるのか。

中野教育長

九州地区は、掛け持ちの可能性があるため、共通統一日を設けているので、九州地区は掛け持ちができない。但し、関東、関西地区など、他の地域で掛け持ちができる。今、54歳まで受験できるので、県出身者で他の地域で教員をしていた方々が帰ってきていている状況だが、逆の現象も起きている。小学校では、期限付きの先生が合格したので、現時点ではほとんどいないことから、来年度の教員確保は、非常に難しい。

大瀧委員

「かごしまの教育県民週間」について、出席率はまだ分かっていないか。

学校教育課長

調査中であり、学校側から集計が上がってきているところである。次回の教育委員会で報告したい。

大瀧委員

保護者、地域の方々に授業を見てもらい、いろいろ意見を聞こう、そして答えることも必要だという考え方から始まった。意見を述べることははあるが、聞く、見ることで、児童生徒、保護者の動き、考えが見えてくると思う。市の行事や学校の現場に足を運んで、見て、考えていけば、意見も具体化し、生まれてくるのではないか。これからも是非、呼びかけていもいりたい。

教育長・教育委員 他に質疑等なし

日程第3 その他

中野委員

インフルエンザの発生状況は。

中野教育長

ピークは超えたが、やはり、多い。学年閉鎖も出ている。

学校教育指導係長

10月末現在で、小・中学校で47名である。

中野教育長

来年度の小学校の運動会は、熱中症のことを考慮し、10月下旬で調整している。中学校は、現行のままである。最終的な決定ではないが、10月末で進めている。

三笠中、脇本小、折多小の学校運営協議会は、3校で複数回開催したいとの相談を受け、その方向で進めている。鶴川内小、鶴川内中については、合同でできないかという相談を受けているので、来年度、規則等の改正を含め進めていきたい。

国体が終了したことに伴い、阿久根でも有名なスポーツを作りたいということで、ボッチャというスポーツを小学校で取り入れていきたい。地域と連携してできるスポーツなので、地域と子供たちが触れ合えるように、主導は教育委員会にあるが、最終的には地域のスポーツ推進員に移行できないか検討、取り組んでいきたい。

スポーツ推進課長

ボッチャの道具について、鹿児島読売テレビの24時間テレビから5セット寄付いただき、地域、学校で利用いただいている。また、不足する物もあるので、購入できないが検討し、貸し出しの機会を増やしていきたい。そして、機運の醸成を図り、広域での大会の開催へ繋げていきたい。

学校教育課指導係長

デジタル教科書について、令和6年度から小学校の教科用図書改定されるに伴い、GIGAスクール構想に基づいて、一人一台のタブレットが導入されている中で、指導用の教科書等について、デジタル教科書の導入を進めていきたい。

(略：メリット等について説明) どの学年、教科に導入していくかも含め、予算を見ながら進めていきたい。

学校教育課指導主事

中尾純利氏のマンガ製作委員会の進捗状況について、現在ネーム（コマ割り）ができている。政策委員会でネームについて表現などの確認をしており、最終的な校正段階に入っ

ているところで、主に世界一周を中心とした構成になっている。年度末に配布する予定である。

中野教育長

全校に配布するが、小学校の道徳の授業に取り入れる予定である。

学校教育課指導主事

スコラ手帳について、市町村でこれを活用しようとするのは、日本で唯一阿久根市だけである。活用することで自己肯定感、自己管理力を高めることに視点を置くことを目的とし、中学校で活用している。これまでの方法とは異なり、明日の宿題や持ってくるものを自分で記録するなど、社会人では当たり前のことを中学校で取り組む。起床、勉強、就寝時間など、自分の行動を視覚化することで、子供も大きく変わってくる。既に鶴川内中学校で取り組み、個人差があるものの、具体的に自分の生活を見直すことができている。

学校教育課長

曾於市の取組（新聞記事）について、曾於市では今年度から教育センターを立ち上げた。これは、法律の一部改正により、今まで教員免許の更新時に研修を受けていたが、これがなくなったこと。国が指標を策定したことで、県でも指標が改正された。そして、ある程度の研修規定を作らなければならず、国も現在進めているところである。それを一元化して曾於市で研修センターとして整理しようとしている。本市でも、各教員のステージに合わせて、整理をしているところである。

曾於市での取組みでは、センターでは各学校に研究協力員を配置している。そして、中心となるメンバーを選び、研究員として委嘱している。ここで重点的に取り組んでいることが、学びの共同体というもので、なかなか分かりにくく、どのように進めていいのか協議しながら出てきたところである。

本市では、協働的な学びとして示しているが、教師が一邊倒に教える授業が未だに見られるので、子供たちが対話しながら作り上げていく授業を目指して、毎週のように指導主事が訪問して、授業改善について支援している。

研修の整理については、市で実施している管理職研修、教務主任等研修、養護教諭研修など、それぞれを整理し、どのステージで、どのような内容にすればいいのかを一覧表にして今年度中に作成していきたい。

また、個別最適な学びという言葉が独り歩きしている部分があるので、そこを指導の個別化、教師側から見た時に、どの子供にどのように効果的な指導をするか整理していく、子供のつまずきであるとか、子供の特性、学習深度、到達度に応じた指導方法についてアドバイスしながら検討しているところである。

さらに、子供側から見た学習の個性化、子供の興味・関心とか、活動したい事や取り組みたい課題に対応できるような、指導の個別化、学習の個性化という形で授業づくりが進んでいければと考える。

中野教育長

この新聞事例を見ると、児童が少なく感じるが。

学校教育課長
中野教育長

学校教育課長

恐らく、1年生の単学級で行っていると思う。
ここは、過去に訪問したことがあるが、学校の統・廃合も進めていたように思うが。
一昨年が大隅南小学校が岩川小学校に、昨年度は財部北小学校が財部小学校に統合、今年度末に高岡小学校が末吉小学校と統合される。

その他（今後の日程等について報告）

閉会時間 午後3時10分